

歴史を物語る文化財施設と共に 千葉県水道局

千葉県水道局の概要

千葉県水道局（以下当局という）は、上水道事業、工業用水道事業の2部門を有し、上水道事業は昭和11年に給水を開始して以来80年以上が経ちました。現在、給水区域は11市にまたがり、

約300万人のお客様に安全でおいしい水道水を供給しています。

上水道の浄水場には、利根川及び印旛沼を水源とする柏井浄水場、利根川を水源とする北総浄水場、江戸川を水源とする栗山浄水場・ちば野菊の里浄水場及び養老川水系高滝ダムを水源とする福増浄水場があります。



千葉県水道局
マスコットキャラクター
ポタリちゃん

登録有形文化財(建造物)への登録

昨年度、当局創設期の昭和12年に建設された栗山配水塔及び千葉分場1号配水池が、国の登録有形文化財(建造物)として登録され、既に登録済みの千葉高架水槽と併せて当局保有の文化財施設数は3つとなりました。またこれらの施設は、土木学会選奨土木遺産にも認定されています。

栗山配水塔

栗山配水塔は、県営水道創設事業の中で、「千葉県水道事務所江戸川水源工場(旧古ヶ崎浄水場)」の付帯施設として現在の松戸市栗山に建設されました。

給水開始初期においては、塔の水圧を利用し当時の浦安町をはじめ、千葉市の一部まで広範囲に及び配水をしていました。

その後、昭和30年代の第一次拡張事業により栗山浄水場が完成した後は、同浄水場の管理となり、現在に至っています。

施設の概要は、高さ31.9m、有効水深20m、内径15m、貯水容量3,534m³、建物の特徴として円筒形の配水塔でドーム状の屋根の塔頂部に4本柱の通気口を有しています。

また、太平洋戦争中の昭和18年頃に、攻撃の標的とされないように塔全体を黒ペンキで塗って戦禍を逃れたとの逸話が伝わっています。



栗山配水塔

その後、数回にわたる補修や塗装を行いました。現在も松戸市、市川市、船橋市一帯への配水を担っています。

80年間現役として稼働し続け、建設当時の姿を原形のままだに保っていることから「再現することが容易でないもの」として評価され、登録有形文化財に登録されました。

千葉高架水槽と千葉分場1号配水池

千葉高架水槽と千葉分場1号配水池は、同じく県営水道創設事業の中で、「千葉県水道事務所千葉水源工場(現：誉田給水場千葉分場)」の付帯施設として現在の千葉市中央区矢作町に建設されました。

千葉高架水槽の施設概要は、高さ30m、内径11m、貯水容量475m³、建物の特徴として全国でも稀な正12角形構造の高架水槽でバルコニー下部の装飾、建設当時世界的に流行したアール・デコ様式など、特徴的なデザインです。

千葉分場1号配水池の施設概要は、有効水深4.3m、内径29m、有効容量2,770m³、建物の特徴としてほぼ円形の配水池でアール・デコ風の階段や中央塔で飾られています。

両施設とも千葉市内の配水を担う重要な施設として、現在も稼働しています。

千葉高架水槽は「築後50年を経過した建造物で、国土の歴史的景観に寄与しているもの」として、また千葉分場1号配水池はおよそ80年前からその姿を変えず、当時では珍しい梁・柱式鉄筋コ



千葉高架水槽



千葉分場1号配水池

ンクリート造のほぼ円形構造など、その建設技術が「再現することが容易でないもの」として評価され登録有形文化財に登録されました。

保存と活用

栗山配水塔、千葉高架水槽及び千葉分場1号配水池は、現在も使用している水道施設のため普段は公開していませんが、登録有形文化財に登録されたことを記念し、平成30年2月4日に記念イベントを実施し、栗山及び千葉の両会場を併せて1,000人弱という多数のお客様にご来場いただきました。

また、毎年春に桜の季節の見学会と称し、一般公開日を設けており、こちらについても例年多数の来場者を迎え好評を得ています。

これらの施設は、戦前から県営水道とともに80年歩み続け、工夫されたデザインや建設当時の原形をほぼ保っていることなど、先人の高い技術力に敬意を表し、水道局の歴史を物語る財産としてふさわしいと考えています。

今後もこの技術の結晶と言える施設を、当局の歴史を伝える貴重な遺産として、また、お客様においしい水を安定して送り続けるシンボル施設として、維持管理・運用し、後世に残しつつ、安心・安全な水の給水を実施していきます。